

群馬県立女子大学 FLRI Newsletter

Foreign Language Research Institute

外国語教育研究所だより

Vol.41 2022.10.3

2022年 明石塾活動報告（7月～9月） 第21期生の活動がいよいよ始まりました

男子6名、女子14名の計20名（学校数14校）の明石塾生が選抜され、入塾式を皮切りに活動がスタートしました。塾生たちは、本学教授陣の専門講義や外国語教育研究所研究員の英語講義を受けながら、思考力や判断力、表現力に磨きをかけ、国際的視野をもった人材となるべく、約7ヶ月間、活動に取り組みます。

9月1日現在

2022
明石塾研修計画（年内）

日付	午前研修・講義 10:00～12:30	午後研修・講義 13:30～16:00
7月30日(土)	—	入塾式 小林徹教授(女子大学文学部長)＊塾長代理
8月1日(月)	英語研修① Dermot MacSweeney研究員／ Timothy Witherow研究員 Introduction to the Course	講義① 群馬学センター 築瀬大輔准教授 「群馬のグローバルスタンダード・3題」
8月2日(火)	Group Encounter 町田邦江副所長	講義② 国際コミュニケーション学部 深谷晃彦教授 「世界の英語」
8月3日(水)	講義③ 文学部美学美術史学科 青田麻未講師 「家具から考える日常生活の美学」	英語研修② Milena Kanna研究員 Non-verbal Communication
8月4日(木)	英語研修③ Mark Yoshida研究員 Appearance and Stereotypes	講義④ 文学部国文学科 板野みずえ講師 「型」から見る和歌史
8月5日(金)	英語研修④ Dermot MacSweeney研究員 Japanese Identity	講義⑤ 文学部英米文化学科 小林徹教授 「文化を整理する」
8月8日(月)	英語研修⑤ David Sakai研究員 Cultural Drift and Migration	講義⑥ 国際コミュニケーション学部 山岡健次郎准教授 「民主主義と公共性－政治参加のススメ」
8月27日(土)	英語研修⑥ David Sakai研究員 Speech Acts	8月の振り返り 町田邦江副所長
9月10日(土)	英語研修⑦ Harry Meyer研究員 Ethnocentrism	社会人講師講義① 群馬県警察 外国人総合対策室長 田島康徳警視
9月17日(土)	英語研修⑧ Timothy Witherow研究員 Population Growth	テーマ討論① 町田邦江副所長
10月15日(土)	英語研修⑨ Mark Yoshida研究員 Environmental Issues	研究所講義①
10月22日(土)	英語研修⑩ Timothy Witherow研究員／ Harry Meyer研究員 Globalization and How it Affects Japan	社会人講師講義②(卒塾生)
11月12日(土)	英語研修⑪ Harry Meyer研究員 Climate Change	研究所講義②
12月10日(土)	英語研修⑫ Dermot MacSweeney研究員 Problems facing the world in the 21st century	グループディスカッション①
12月17日(土)	英語研修⑬ Dermot MacSweeney研究員 U.N.Mock Debate	グループディスカッション②

※感染状況により延期（または中止）されることもあります。

入塾式及び塾長との懇談会 7月30日

公務により海外出張中の小林良江塾長（女子大学長）に代わり、文学部長の小林徹教授が式辞を述べました。式辞の中で、「世界で起きている様々な問題に対処しようとするのなら、粘り強くモノを考えて行く持続力、果敢なる行動も辞さない決断力、そして行動力が必要なのだろうと私は思います。そして国際社会を見据えていらっしゃる皆さんにおかれましては、そういう力を着実に身につけていただくために、一つの入り口として、明石塾での学びを位置づけて欲しい。」と塾生たちを激励しました。

塾生を代表して根岸羽多さん（高崎女子高等学校2年）が「新型コロナウイルスの影響で、学校外での活動や学びの場が制限され参加する事が難しい中、明石塾が開催され学べる事を嬉しく思うと共に、これから始まる様々なプログラムにとっても心躍ります。このような状況の中で学ばせて頂けることに感謝し、明石塾が目指すグローバルリーダーとなるよう切磋琢磨し成長していくことを誓います。」と挨拶しました。



小林教授式辞



塾生代表挨拶



入塾式の様子

式後、小林教授と上原克之事務局長を交えて、懇談会を行いました。塾生一人一人の自己紹介を受けて、小林教授と塾生とで大変有意義な懇談を行うことができました。その一部を紹介します。

【小林教授】 多くの方が、「視野を広げたい」ということ言っていました。そこで考えてもらいたいのは、視野を広げるためにはどういふことをすれば良いのか、ということです。昔は視野を広げるのは難しい時代でした。でも現代は視野を広げるのは比較的簡単です。インターネットがあるからです。皆さんに期待するのは、視野を広げるための手段をどれだけつかめるといふことです。

【塾生 A】 私は、私たち高校生の世代が使っているインターネットは視野を狭くするようになってきていると思っています。自分が調べたいものや、過去に調べたものなど、好きなものばかりが一番始めのところに出てくるようになってきているからです。

【小林教授】 インターネットが一般家庭で使えるようになったのは、大体 1995 年くらいです。その頃のインターネットというのは、視野を広げるためのツールだったのです。でも今おっしゃっていたように、今のインターネットは「お気に入り」のコンテンツだけ見て、調べるためのツールになっている可能性は有ります。だからこそ、お気に入り以外のところも見ようと意識し、視野を広げる手段をたくさんもって欲しいと思います。

【上原事務局長】 情報というのは一つで判断するという事は非常に危険です。何を元に情報を得て、どう行動するかというのが、これからの皆さんは本当に大事なことになってくると思うのです。自分の中の価値観というものを、色々な中で経験を積んで養っていくということが非常に大事な世の中になってきました。その価値観を明石塾の中で見出してください。

【塾生 B】 コミュニケーション能力について質問です。ツイッターやニュースを見て、それに対する自分の考えをもったとしても、自分の考えを伝える場面がなかったり、家族や友達とニュースを話題とした意見交換をする場が少ないため、自分の考えに対する批判や反論だったり、違う観点からの意見などを聞く機会が少ない気がします。どうやったら自分の考えを客観的に見直す力を養うことができるのでしょうか。

【小林教授】 一般論ですが、高校生には高校生らしいコミュニケーションのあり方、人との話し合い方があります。それぞれ段階があるのです。確かに高校生の段階で今言ったような話題で、多くの人と話をすることができるかといったらちょっと難しいと思います。だからこそ、今の皆さんは知識を蓄える時期にいてと考えています。将来において何か話をするときの、基礎的なものを蓄えておく、今はそういった時期なのです。そうすれば、不満ばかりでなく、前向きに自分にとってためになる高校生活を送ることができると思います。



塾長との懇談風景①



塾長との懇談風景②

本学教授陣による講義（8月1日～8日）

夏休み中に塾生たちは、群馬学、世界の英語、美学、和歌の歴史、文化学、政治参加といった、本学の教授の専門分野に関する講義を連続して受講しました。また、塾生たちは理解を深めようと積極的に質問し、担当された先生方もどんな質問に対しても、丁寧に、分かりやすく回答してくださいました。6日間の学問シャワーを浴び続け、塾生たちにとってとても有意義な時間となりました。

「群馬のグローバルスタンダード・3題」



築瀬大輔先生（群馬学センター）

「世界の英語」



深谷晃彦先生（国際コミュニケーション学部）

「家具から考える日常生活の美学」



青田麻末先生（美学美術史学科）

「[型] から見る和歌史」



板野みずえ先生（国文学科）

「文化を整理する」



小林 徹先生（英米文化学科）

「デモクラシーと公共性ー政治参加のススメ」



山岡健次郎先生（国際コミュニケーション学部）

【塾生の「気づき」や「学び」】 * 「ふり返しシート」から一部抜粋

- ・群馬学というタイトルでしたが、ヨーロッパのことなども出てきて驚きました。群馬も世界との結びつきというもの存在し、その視点を見落としてはいけないと学びました。
- ・世界の英語が、イギリス英語やアメリカ英語から進化を遂げていることがよく分かりました。英語が第二言語の国の英語も、その国の第一言語の特徴が随所に反映されていて面白かったです。
- ・日常を美として、アートとして捉えてみることは、毎日たくさんの情報に追われ、スマホで何もかも完結してしまう現代の人に必要な感性の働かせ方だと思いました。

- ・昔と今では文化や価値観などのギャップがあり、今では考えられないような状況を読んだ和歌が多くあることに驚きました。様々な心情を読み解くことによって解釈が変わり、和歌を読む楽しさが分かりました。
- ・一人の自立した人になるためには、自分自身の軸となる世界観や社会観、歴史観といった確固とした価値観を確立することも重要だということが理解できました。
- ・政治の知識が無いため、とても難しいと思ってしまいました。しかし、政治への関心を無くしてしまうと、自分の意見を言える『自由』を失ってしまうので、自分にできることは何かを常に考えることが大切だということに気づきました。

研究員による英語研修

英語研修では、英語をコミュニケーションのツールとして使いながら、研究員による異文化理解、人口問題、民族主義論などをテーマにした英語講義を受け、塾生同士で議論します。活動を通して、英語で表現するために必要なバックボーンとなる教養を身に付け、英語力に磨きをかけます。



Dermot 研究員



Milena 研究員



Mark 研究員



David 研究員



英語研修の様子①



英語研修の様子②

高等学校連携英語授業 楽しみながら英語力を伸ばす

調和のとれた総合的英語能力の育成や、英語学習の動機付けとその環境づくりのため、高等学校連携英語授業を実施しています。今年度は高崎商業高校、伊勢崎高校、沼田女子高校、中央中等教育学校、高崎経済大学附属高校の5校で実施予定です。

前期はそのうち4校に授業を行いました。環境問題やコミュニケーション論、日本人論などについて、議論や発表などの活動を行いました。最初は戸惑っていた高校生たちも、研究員のアドバイスを受け、徐々に英語を使う活動にも慣れていき、楽しさを実感しているようでした。



高崎商業高校



伊勢崎高校



沼田女子高校



高崎経済大学附属高校

企業英語研修 業務に必要な基礎的な英語力を身に付けます

4月12日(火)に、サンデン株式会社において、研究員が講師として28名の社員に「新入社員対象語学研修」を行いました。英語を使って簡単な自己紹介を行うことを繰り返すことで、社員の方も緊張がほどけ、自然と英語が出てくるようになっていました。会社で使うと思われる英単語や、それらの単語を用いた相手紹介、役職別の依頼や返答の表現方法など、やや高度な英語表現までレベルを上げながら学習しました。社員の皆さんは積極的に、そして楽しみながら英語を使い、改めて英語の必要性を感じているようでした。



Milena 研究員による指導



Mark 研究員による指導

留学支援 長期留学8名、短期研修14名が海外へ

昨年度は交換留学及びオンライン留学に限定されていましたが、今年度の夏季短期研修及び後期出発長期留学から、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドの3カ国で、本学が認めた大学に限定して渡航が認められました。感染状況を考慮しながら、今後も県女生の留学支援の充実に努めていきます。

後期出発長期留学

	国名	大学名	種別	期間	人数
1	カナダ	ヒューロン大学	交換	9ヶ月	2
2		トンソンリバーズ大学		11ヶ月	3
3	オーストラリア	グリフィス大学	私費	11ヶ月	2
4		ディーキン大学		10ヶ月	1

夏季短期研修

	国名	大学名	期間	人数
1	ニュージーランド	オークランド工科大学附属語学学校	4週間	1
2		ワイカト大学附属英語学校+インターンシップ	4週間	5
3	オーストラリア	ロイヤルメルボルン大学	6週間	2
4		アデレード大学	5週間	3
5		西オーストラリア大学	5週間	2
6		ディーキン大学	6週間	1

学生親善大使委嘱状交付式 (7月6日)

留学支援プログラムを利用して海外留学を行う学生は、群馬県の学生親善学生大使を委嘱されます。留学先で群馬県の自然や生活、産業等について説明し、さらに友好親善を図ることを目的に実施しています。交付式では、小林良江学長が「外国の方は日本のことに興味をもっています。学生親善大使研修等を通して、日本のこと、群馬のことなどを学び、堂々とアピールしてきてください。」と激励をしました。学生を代表して永堀綾乃さん(国際コミュニケーション学部3年)が、「多くの人の支えにより、今回留学という一つの夢を叶えられることになり、嬉しい気持ちと、感謝の気持ちでいっぱいです。学生親善大使として、群馬県が自然に恵まれた魅力あふれる県であるであることを伝え、群馬と世界の懸け橋となるよう尽力します。」と挨拶しました。



小林良江学長激励



学生代表・永堀綾乃さん(国コミ3年)挨拶

English Help Desk 英語に関する「よろず相談所」です

研究員が直接本学学生に指導することを通して、英語に関する学習法や悩みの解決など、学生の英語力向上を支援しています(支援内容によっては、研究所係員(日本人)が指導する場合があります)。学生たちは積極的にHelp Deskを活用し、既に昨年度の相談件数を上回り、毎週のように研究員のもとへ足を運び指導を受ける姿も見られました。今後も研究所の人的資源を最大限活用し、学生たちの英語に関する課題解決を支援していきます。



学生への指導の様子

令和4年度実績(延べ人数)

令和4年8月31日現在

支援内容	国文	英米文化	美学美術史	総合教養	国際コミュ	大学院	計
英会話		13			82		95
英作文					2		2
留学相談					44		44
資格試験対策		7	1		6		14
音読・発音指導		2			2		4
計	0	22	1	0	136	0	159

【参考】令和3年度実績(延べ):128名(国文:2 英米文化:37名 国際コミュ:88名 大学院:1)

